

6．大学及び産業界に対する期待

（大学への期待）

大学は従来より、航空科学技術分野における教育と研究を幅広く行い、我が国の航空科学技術の基盤を培ってきている。今後、大学の独立行政法人化が予定されているが、大学のこの基本的役割は今後とも十分に果たしていく必要があることはいうまでもない。大学には、重要技術課題に関連した基礎データの蓄積、現象の解明、理論体系化などの基礎研究を推進し、開発・実用化を含めた研究開発全般を支えるとともに、自由な発想に基づく多様な研究を行い、革新的な航空技術を創造することを期待する。

また、近年の大学への期待として、このような基本的役割に加えて、産官学の一翼として、研究成果を直接的に社会に還元するという第三の役割が認識されるようになってきている。このような視点から、大学においても、航技研及び産業界と連携して、4．2で示した重要技術課題のうち可能なものから取り組みを始めることが望ましい。

人材の育成の面でも、大学の本来の役割に十分期待するとともに、航技研、民間企業等との共同研究等を通じて実社会に則した実践的な研究をさらに推進し、優秀な学生の育成を促進するとともに、その人材を航空分野に確保することも重要である。

（産業界への期待）

我が国の航空に関係する産官学連携を推進するためには、研究機関（航技研及び大学）から研究に係る情報を産業界へ発信し、研究成果の移転を図る努力が必要である一方、産業界には、この研究機関側の動きに呼応して、研究機関の活動内容に注目し、研究成果を見極めた上で製品化・事業化の可能性を検討するなど、相互に努力する姿勢を期待する。